

機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会(第 4 回)及び
総合工学委員会・機械工学委員会合同 力学基盤工学分科会(第 5 回)・
力学の深化・統合化小委員会(第 3 回)・力学の展開小委員会(第 3 回)合同会議
議事録 (案)

日 時 平成 29 年 3 月 7 日(火) 10:00~11:25

会 場 日本学術会議 5 階 5-A(1)会議室

出 欠 (◎委員長, ○副委員長, △幹事)

IUTAM 分科会

出席: ◎藤井孝藏, 池田駿介, ○金田行雄, 岸本喜久雄, 久保司郎, △菱田公一, 宮内敏雄, 和田章, 西村直志

欠席: 松本洋一郎, 谷下一夫, 東畑郁生 (在外勤務), 橋口公一, 前川宏一 (海外出張), 緑川光正, 矢川元基, 吉村忍

オブザーバー: 佐野理 (東京農工大), 藪野浩司 (筑波大), 亀田正治 (東京農工大), 山田貴博 (横浜国大), 吉川仁 (京大), 小阪雅裕 (日本機械学会)

力学基盤工学分科会

出席: 藤井孝藏, 加藤千幸, 岸本喜久雄, ○北村隆行, △高田保之, 田中和博, 田中正人, 萩原一郎, 菱田公一, 松尾亜紀子, △水野毅, ◎宮内敏雄

欠席: 松本洋一郎, 荒木稚子 (在外勤務), 金子成彦 (海外出張), 小机わかえ, 但野茂, 橋口公一, 門出政則, 矢川元基, 山崎光悦, 吉村忍

力学の深化・統合化小委員会

出席: 萩原一郎, 加藤千幸, ◎岸本喜久雄, 田中和博, 宮内敏雄, ○西村直志

欠席: △荒木稚子 (在外勤務), 橋口公一, 門出政則, 山崎光悦, 吉村忍, 小机わかえ, 中谷彰宏,

力学の展開小委員会

出席: 畔上秀幸, 大島まり, 萩原直道, 高木周, ○高田保之, 田中和博, 田中正人, ◎菱田公一, 水野毅, 宮内敏雄

欠席: 荒木稚子 (在外勤務), 金子成彦 (海外出張), △鈴木雄二, 但野茂, 山西陽子

配付資料

- 資料 1－1 IUTAM 分科会前回議事録（案）
- 資料 1－2 IUTAM 分科会前回議事録（案）関連資料
- 資料 2 力学基盤工学分科会前回議事録（案）
- 資料 3 IUTAM 分科会小委員会の設置について
- 資料 4－1 理論応用力学講演会開催方針
- 資料 4－2 第 64 回理論応用力学講演会の会期，会場案について
- 資料 4－3 幹事団名簿ならびに共催学会名簿
- 資料 4－4 共催依頼状案
- 資料 4－5 前回決算
- 資料 4－6 開催スケジュール案
- 資料 5 理論応用力学シンポジウムについて
- 参考資料 1 IUTAM 分科会委員名簿
- 参考資料 2 力学基盤工学分科会委員名簿
- 参考資料 3 力学の深化・統合化小委員会委員名簿
- 参考資料 4 力学の展開小委員会委員名簿

議事

1) 前回議事録（案）（IUTAM 分科会・力学基盤工学分科会）の確認

藤井委員長より，前回(11/28)IUTAM 分科会議事録案（資料 1－1 および 1－2）の説明がなされ，承認された。

宮内委員長より，前回(9/29)力学基盤工学分科会議事録案（資料 2）の説明がなされ，承認された。

2) IUTAM 分科会国内対応企画小委員会の設置について（IUTAM 分科会）

藤井委員長より，資料 3 に基づいて小委員会の設置が機械工学委員会，土木工学・建築学委員会で承認されたので，IUTAM 分科会の承認を経て日本学術会議に設置申請書を提出する旨が説明された。また，連携会員の緑川光正氏を委員として加えることが提案され，これを含めて小委員会の設置を承認した。菱田委員より，本小委員会の設置は 2024 年の ICTAM 日本開催に向けて，若手メンバーの強化，セッション企画案の具体化などを目的とするとの説明があった。また，岸本委員より，小委員会設置に関し，日本機械学会，土木学会および日本建築学会を主幹事学会として運営している理論応用力学講演会と IUTAM 分科会との連携を強化し，さらに国際活動への展開につなげる意味

合いがあるという背景の補足説明がなされた。

3) ICTAM2024 について (IUTAM 分科会)

菱田委員より、日本での ICTAM2024 開催に立候補する方向で国内活動を活性化するために、若手の人選を速やかに行う必要がある旨の説明があった。ついで、オブザーバーの佐野先生より、3年後にミラノで開催される ICTAM の Congress Committee で 2024 年の開催地が決定されること、そのためには 2018 年にはシンポジウムの提案などを行っておく必要があること、さらに General Assembly(GA), Congress Committee(CC)の現状および開催地決定の仕組みに関する説明がなされた。次回分科会において GA や CC のメンバーリストなどを整理した資料を提示することとした。

4) 理論応用力学講演会について (IUTAM 分科会)

資料 4-1 から 4-6 に基づいて、主幹事学会である日本機械学会事務局の小阪雅裕氏より、準備状況の報告があった。本講演会は、2017 年 8 月 22 日(火)から 24 日(木)に機械振興会館で開催されることや予算案についての説明がなされた。また、日本学術会議には IUTAM 分科会から本講演会の開催を申請することとした。

5) 理論応用力学シンポジウムについて (力学基盤工学分科会)

宮内委員長より、資料 5 に基づいて次回シンポジウムの開催方針が説明された。理論応用力学シンポジウムの開催に関する実務を担当するために理論応用力学シンポジウム実行委員会を組織することが承認された。その構成は以下の通りである。

委員長：菱田公一

副委員長：岸本喜久雄，高田保之

幹事：鈴木雄二，高木周

委員：中谷彰宏，西村直志，山西陽子，荻原直道

また、今回は学生の参加が増えるような工夫が必要との意見があった。

6) 力学の深化・統合化と展開について (力学基盤工学分科会)

力学の深化・統合化と展開に関する意見交換を行った。主な意見は以下の通りである。
・力学の分野において以下の 3 点の問題点がある。一つは、わが国の優れた力学研究が必ずしも国際的にうまくアピールされていない点。二つ目は、力学が分野間で分断されており、機械工学・土木工学・建築学だけでなく、地震や気象など共通の力学基盤を持っているはずの分野が一同に会して情報交換する機会がない。三つ目は、力学を研究す

る若手研究者をうまくエンカレッジしていく必要がある。

- ・マスタープラン「学術大型研究計画」で力学基盤工学分科会から提案した「理論応用力学研究拠点の形成」は学術大型研究計画に採択され、プレゼンまで進んだものの重点大型研究計画には採択されなかったが、緊急性や社会的重要性をどのようにアピールしていったらいいかを理論応用力学講演会などで議論していくことが必要であるとの指摘がなされた。

- ・欧米や中国には理論応用力学に関する学科を有する大学があるのに対し、日本にはそれが無い。日本においても戦略的に力学拠点を形成する必要があるとの指摘がなされた。

その他、「数理科学の深化と諸科学・産業との連携基盤構築」が重点大型研究計画に選定されたこと、固体力学に関する研究者増が必要なこと、人的ネットワーク作りが重要である、などの意見があった。

7) その他

- ・次回分科会の開催について

藤井委員長から、IUTAM 分科会は、5月および8月の理論応用力学講演会会期中に開催予定であるとの説明がなされた。

宮内委員長から、力学基盤工学分科会は、9月に開催予定であり、それまでに理論応用力学シンポジウム実行委員会において実施案を検討することとした。